

社会福祉法人栄光会

児童養護施設 若草園

〒787-0155 高知県四万十市下田 2211

IP7㉿ 050-3344-8850 Tel(0880)33-0247

Fax(0880)33-0518

発行：福留久美、編集：瀬戸雅弘

# わかくさ



## 8.2-5 むろと元気塾

国立室戸青少年自然の家主催の教育事業、生活・自立支援キャンプに参加しました。室戸岬周辺のゆたかな自然や文化に触れる事ができました。

## 巻頭言

錦秋の候。皆様におかれましては益々、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

猛暑の夏を元気にのりきった子ども達は、心身共に成長して、特に体格は目で見てわかるほど大きくなり、春夏に着ていたTシャツやズボンが窮屈そうです。

夏休みには、国立室戸青少年自然の家の協力のもと、3泊4日のキャンプへ行ってきました。バスに揺られての4時間ではありましたが、イルカと一緒に泳ぎ、シーカヤック、シュノーケリング、室戸世界ジオパーク見学等の体験をさせて頂き、思い出に残る夏となりました。その中の遊泳時間では、下田で四万十川や海に慣れている子どもたちがダイナミックな海の遊び方をするので、自然の家のスタッフを驚かせてしまいました。水の苦手な低学年児は室戸の海で自力で泳げるようになり、誇らしげに「俺、一人で泳げるようになった」と何度も言っていました。そこにいた多くの職員に褒められ彼は大満足でした。日々子ども達との生活の中で、一つひとつの小さな成長を見逃さずしっかり認めて、子ども達に「成功体験」、「自信」を積み重ねさせるための工夫は大切なことです。

先日、園のフェンスの向こう側に、秋の実のり「ココブ」を発見しました。やがて子ども達は木登りも始めました。これぞ子どものあるべき姿と嬉しく感心した事でした。今や子ども達がゲーム機や携帯電話やパソコン、カードゲーム等に触れない生活をする事は困難とも言えます。しかし、それらに支配されない環境を子ども達へ提供していきたいものです。この四万十の四季折々の豊かな自然を十分に体験する機会が多く得られる暮らしをしていきたいものです。

昼夜の気温の差が段々と厳しくなっておりますので、お体をご自愛下さいませ。

施設長 福留久美



育児相談窓口

児童家庭支援センター  
わかくさ

でんわ (0880)

33-0258

24時間  
365日無料





ベビーのおさんぽ  
近くの平野の浜に行きました。ちなみに、幼児の足には遠いので車を利用しました。



子どもの誕生日会  
ロウソクの火を上手に消せるかな。



7.18 下田子ども夏祭り  
下田保育園、小中学校、若草園合同で開催しています。今年で13回目です。



絵本の読み聞かせ  
ねむる前も昼間も子どもは絵本が大好きです。



### 8.2-5 むろと元気塾

恒例の夏キャンプは子どもゆめ基金による支援事業のキャンプに参加しました。室戸岬周辺には室戸世界ジオパークなど自然と文化が豊かで、それらに触れながら子ども達の可能性を伸ばすきっかけ作りになりました。



イルカとのふれあいは忘れられない思い出になりました。



アオサのりの製造を体験しました。



## 作文コーナー

児童が学校で書いた作文を紹介します。

### 運動会

下田小6年 T・T

1 9月20日に下田小学校運動会がありました。それで、ぼくは白組でした。100M走では、1位になれてうれしかったです。

2 親子リレーでは、お母さんといっしょに走りました。最初はちよつと気をぬきました。今までは、お母さんの方が速いと思っていましたが、ぼくの方が速く走っていました。最後は100%の力でおいぬきました。おどろきました。

3 お昼はお母さんがお弁当を作ってくれました。一番おいしかったのは、しょうがやきでした。

4 最後は、白組が勝ちました。小学校最後の運動会だったので、良かったです。



## スポーツの秋



## 芸術の秋



行事・催し物などをするのによい、秋の季節。学校でもスポーツに芸術に色とりどりのイベントがあります。若草園の子ども達も、夏の間にかくましくなった体をフルに用いて秋を満喫しています。地域で活動している竹島ミニバスケットボールクラブに2名の男児がお世話になっております。この時期、多くの試合がおこなわれています。

また、園内でも恒例の百人一首カルタとり大会が開催されました。かつては短歌を朗々と詠んで下さるボランティアの方がいらっしゃいましたが、現在は百人一首のCDを活用しております。このCDがなかなかよく出来ておりまして、お琴で奏でるBGMも入っているのです。和の雰囲気をとってもステキです。まさに芸術の秋です。



## アフターケア事業

平成26年度からはじまった「あおば」の事務所が9月に完成しました。「退所児童等アフターケア事業あおば」とは、若草園など児童施設を巣立った子ども達や、児童福祉従事者を支援する事業です。若草園の入口、下田中学校との間に今年、消防屯所が移転新築されましたが、そのすぐ隣の場所です(下の写真の太線で囲まれているのがあおばの事務所です)。



児童養護施設、自立援助ホーム、ファミリーホーム、里親家庭を退所し、自立生活をしている方で困っている事はありませんか？ お気軽に相談してください。

Tel (090)5912-1785  
専門相談員 岡崎光子  
(9:00 ~ 17:00、緊急の場合は24時間対応します)  
<< 無料 >> (通話料はかかります)

## ムベ生る哉

若草園 事務 寺田知子

蒼天の下、庭に子どもと園長がココブを探る姿があった。幼い女兒の掌に卵大の果実が収まっている。秋らしい暗紫色の実の中は、黒い種子を覆う半透明の果肉で、食感、味ともにアケビに似ている。園長の話では、むかし、ココブは園児たちの恰好のおやつだったという。21世紀生まれの子どもたちは「これがおやつなが？」と、どうやって取るのか知恵を絞る。ちょうど通りかかった指導員が手近な一房を落としてくれた。しかし高い枝にまだ一房が残る。ゲームの操作のように指先一つでゲットできず、あとは木に登るしかない。及び腰の幼児たちを見て、高校生女子が「私が採っちゃうけん」と加わってくれた。高校生男子も見守ってくれた。自然相手の子どもの遊びは先輩から後輩へ技を伝授し、体得させるのが一番早い。大きくなった時、「ココブと一緒に食べたな」、「お姉ちゃんが木登り見せてくれたな」と思い出し、周りにいる子どもにも木登りを教えられる人に育ってもらいたい。

ココブは、正式名を「ムベ」といい、一説には大化の改新で活躍した天智天皇が名付けたそうだ。葉は成長につれ3枚5枚と増え、7枚まで成長して初めて実を付けるらしい。葉の数七五三にちなんで、子どもの健やかな成長を象徴する植物であるという。秋の園児に似合っているのも、「むべなるかな(いかにもそのとおり)だ。

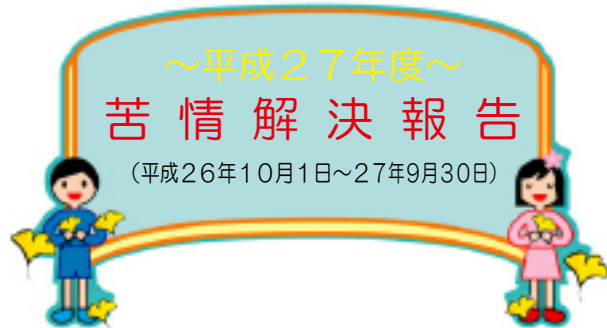
今も高い枝に完熟したココブ一房が揺れている。





# 苦情解決報告

(平成26年10月1日~27年9月30日)



●よせられた件数：0件

平成26年10月1日から平成27年9月30日までによせられた苦情はありませんでした。

苦情の受付は面談、電話、書面（施設内のポストに投函、もしくは郵送）にて随時おこなっております。現在、施設内の苦情解決委員は福留久美園長、森田佳代主任、増田幸一主任です。外部の苦情解決第三者委員は矢野川研氏、乾梢氏、森田智枝氏にお願いしております。

若草園では定期的に苦情解決第三者委員会を開催して、福祉施設利用者へのサービス向上のために取り組んでおります。苦情以外にもご意見・ご要望がございましたらお気軽にご連絡を下さいませ。



きく

少子化対策があまり進んでいないように感じている。根本的な解決としては出生率の増加に尽きるが、社会環境を整えて若い世帯が子育てに取り組めるような世の中にするのが、実は一番大切だと考える。▼パブル期にシーマ現象が起こった。地価や住宅価格の高騰でマイホームを諦めた一般のサラリーマンも高級車を買ったという現象だ。いま空前のペットブームを別の角度から見れば、子育てを諦めた世帯がせめてペットでも飼おうとしている様に見えるかもしれない。▼ペットの代表格と言えば犬と猫だが、最近の飼育数は猫が増加しており、年内には犬を抜くのではないかと予想されている。これにはさまざまな原因があるが、猫の魅力として予想外で、犬のように完全に従順でないところにおもしろさがあるのだという。▼子どもはもっと奇想天外だ。そしてまさに人生をかけて取り組むのふさわしい。もっと、子育ての魅力を発信し、子育てを支える産業が成長し、社会に受け皿ができた時、再びベビーブームが到来するのではないか。(せと)

編集後記



# ご寄付一覧表

皆様に心から感謝申し上げます。

< 50音順・敬称略 >



## \*寄付金

一条通商店街振興組合 県立中村高校  
大塚紀美  
カラオケ友の会・清流  
黒岩将  
小松伸雄  
小松道明  
四国岩谷産業  
下田小学校職員一同  
田中則明  
戸田隆造・美鈴  
畑山嘉宣  
林博  
藤原啓正  
松倉建設工業(株)  
三原屋  
宮崎祐  
山本純子

⇒ 17人 17口 ¥1,280,404

## \*寄付物品

(株)足摺農園 (2回)  
小椋茂昭  
黒岩将  
(株)ココ・サン  
曾根商店  
タイガーマスク基金 (レイコップ(株))  
田辺恵美子  
中越  
日本レコード協会  
畑山嘉宏  
パチンコホームラン (5回)  
三原屋  
メイヤの樹 望月和弘

⇒ 13人 18口 時価総額 ¥206,500

## \*ボランティア

高知保護観察所  
→機関誌発送作業  
(株)日本公文教育研究会  
→公文教室運営指導  
矢野川研  
→児童学習指導



前回このコーナーで紹介させていただいたお名前に誤りがありました。

誤：陶アトリエねむむ → 正：陶アトリエねむ

誤：カラオケ清流 → 正：カラオケ友の会・清流

関係者の方々にはご迷惑をおかけしました。お詫びして訂正いたします。

▶今回よりこのコーナーは半年ごとに報告させていただく事になりました。

## 11月は児童虐待防止推進月間です

平成16年度から厚生労働省では毎年11月を「児童虐待防止推進月間」と定め、児童虐待問題に対する社会的関心の喚起を図るため、集中的な広報・啓発活動を実施しています。この期間に合わせて高知県でもオレンジリボンキャンペーンを展開しています(同封のチラシ参照)。先日発表された平成26年度の児童虐待相談対応件数は8万件を超え、毎年増加の傾向にあります。

今年7月からは虐待かもと思った時などに、すぐに児童相談所に通告・相談ができる全国共通の電話番号「189」も開設されました。「児童家庭支援センターわかきさ」でも育児・子育てに関する相談などを受け付けております。子ども達をみんなの目と、手と、力を合わせて守っていきましょう。

【平成26年度虐待防止標語】  
ためらわず 知らせてつなぐ 命の輪

